

住民の手で古民家再生



草刈り機を使い庭の雑草を刈り取る玉川幸枝さん(左)
＝瑞浪市大湫町、西森川邸

旧中山道大湫宿の中心部に位置する西森川邸は、岐阜市在住の医師森川清史さんの所有。50年近く空き家となっており、老朽化が進んでいた。宿場町の景観を市民の手で守り、町の魅力創出につなげようと、瑞浪市内の公共施設で清掃活動を行うNPO法人「グリーンバード」の瑞浪チームが、昨年、「古民家再生プロジェクト」を設立。西森川邸は森川さんから無償で借り受けた。

プロジェクトには、2016年3月に地域の産業活性化や観光振興を目指す「地方創生にかかる包括連携協力に関する協定」を結んでいる東濃信用金庫と十六銀行が賛

同。市内の支店の行員、職員の派遣などで協力をしている。

今年3月に行われた、同プロジェクトの初めての活動となる建物内の清掃活動では、住民ら約40人が参加。先月28日には、同チーム代表の玉川幸枝さん(33)や住民ら3人が草刈り機を使い、庭の雑草を1時間ほどかけて刈り取った。4日は、建物内の瓦を剥がして屋根の状況を確認し、修復作業などの見通しを考える。

「イベントスペースやゲストハウスの開設、建



NPO法人や地域住民らによって再生プロジェクトが行われている西森川邸＝同

瑞浪市

瑞浪市大湫町にある築150年以上の古民家(通称西森川邸)。50年近く空き家状態で、内外装の激しい傷みが目立つ中、地域住民やNPO法人などが「再生」に取り組んでいる。若者が集うイベントスペースやゲストハウスなど、町のにぎわいを生み出す拠点づくりを目標とし、これまで、修復に向けて蔵や座敷の清掃活動を実施している。(湯浅裕作)



イベントなど活用目指す

大湫宿の空き家、修復へ手入れ